

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380449

研究課題名(和文) 20世紀フィリピン長期経済統計の作成と分析

研究課題名(英文) Long-Term Economic Statistics of the Philippines, 1901-2010

## 研究代表者

加納 善子(永野善子)(Nagano, Yoshiko)

神奈川大学・人間科学部・教授

研究者番号：60148252

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀フィリピン長期経済統計の特徴を理解するために、「第1部：フィリピン経済史の背景」と「第2部：資料と推計方法、ならびに推計結果」の二部に分けて統計を整理し、一橋大学経済研究所が推進してきた『アジア長期経済統計』シリーズの第10巻「フィリピン」として研究成果を東洋経済新報社から刊行することを目的として実施された研究である。「第1部」では、フィリピン国民経済の成立の時期を確定したうえで、同国における経済統計制度の整備過程を追跡する。ついで「第2部」では、人口、第一次産業、第二次産業、第三次産業、金融、国内支出の統計を吟味し、フィリピンの国民所得計算を時系列的に把握する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to grasp the distinctive features of the Philippine economy in the long-term period of 1901-2010. The result of the study will be compiled in the one volume for the series of "Asian Long-term Statistics" project that has been initiated by the Institute of Economic Research Hitotsubashi University, Tokyo. The volume will be co-edited by Yoshiko Nagano & Konosuke Odaka to be published by Toyo Keizai Shinposha, Tokyo. It will be consisted of two parts and ten chapters, including the analysis of the natures of the population, various industries including financial sector and domestic consumption that should lead to the time-series analysis of the national economic account of the Philippines.

研究分野：フィリピン経済史

キーワード：フィリピン経済 長期経済統計 マクロ経済史 国民経済計算 統計制度 産業構造 人口構成 生活水準

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、一橋大学経済研究所『汎アジア圏長期経済統計データベースの作成』(文部省中核的研究拠点形成プロジェクト、1995 - 99年度)、「21世紀COEプログラム」『社会科学の統計分析構築』(2003 - 07年度)、「グローバルCOEプログラム」『社会科学の高度統計・実証分析拠点構築』(2008 - 12年度)の一環として実施してきた、フィリピン・マクロ経済史統計の収集と分析作業の最終総括を行うことを目的としたものである。

本研究の学術的背景を簡潔に述べると、以下のとおりである。第二次世界大戦の時期を含めて20世紀フィリピンの国民経済計算を主要な課題とした研究は、フィリピン経済史研究のなかでもこれまで主要な位置を占めてこなかった。第二次世界大戦後に政治的に独立したフィリピン経済の現状分析を軸とした研究書が1960年代から刊行され、そのなかで、政府統計にもとづいて、限定的ではあるが一定時期の国民所得についての議論が展開されてきたにすぎない。

## 2. 研究の目的

この意味で、国民経済計算を主要な課題としたフィリピン経済史研究に着目すると、その研究は緒についたばかりである。こうしたなかで、フィリピンの国民経済計算を長期的・歴史的視野のもとに分析することに最初に成功した業績に、リチャード・フーレイ論文がある(Richard Hooley, "American Economic Policy in the Philippines, 1902-1940: Exploring a Dark age in Colonial Statistics," *Journal of Asian Economics*, vol. 16 (2005))。本論文は、20世紀前半アメリカ植民地期を主な考察対象期間として設定し、フィリピン経済の成長過程を数量的に明らかにした労作である。本論文は、近隣東アジア・東南アジア諸国との比較においてフィリピンの国民経済計算を行ったこと、

さらにアメリカ植民地期、とりわけ1930年代のフィリピン国民所得の成長率鈍化の問題を、第二次世界大戦後独立後のフィリピン経済のあり方と接合して論じているところがその特徴である。

本研究は、上記フーレイ論文をひとつの土台としつつ、1901 - 2010年のフィリピン国民経済計算を時系列的に算出し、同時に関連する経済データを一冊の研究書としてまとめることをめざしたものである。最終的研究成果は、『アジア長期経済統計』(東洋経済新報社、監修者：尾高煌之助・斉藤修・深尾京司、第10巻「フィリピン編」(永野善子・尾高煌之助編)として刊行を予定している。

## 3. 研究の方法

上記の目的のもとに3年間の研究を遂行するために、本研究では、つぎの3つの課題を設定した。(1)フィリピン経済史の背景について、フィリピンにおける「国民経済」の整理(領域などの変更を含む)、フィリピン経済史研究のなかの国民経済計算、フィリピン経済統計と統計制度、の3点について明らかにする。(2)資料と推計方法及び推計結果について、人口と労働力、第一次産業、第二次産業、第三次産業、国内支出の構造、物価・賃金・利子・為替レート、金融的側面、の7点について分析する。(3)フィリピン・マクロ経済史概観として、総合勘定(GDP、GDE)概観、フィリピンの環境経済と生活水準、フィリピンにおけるアジア間貿易、遺された課題、の4点について考察する。

本研究においてこのような課題設定を行う研究上の意義は、次のとおりである。本研究は、これまで、以下の二つの段階を経て研究を進めてきた。

第1段階では、一橋大学経済研究所「汎アジア長期経済統計データベースの形成」(文部省中核的研究拠点形成プロジェクト、19

95 - 99年度)のもとで、それまで日本でほとんど皆無であった、アメリカ植民地期フィリピン経済統計のマイクロフィルムを、主としてアメリカ議会図書館・国立公文書館・主要大学図書館で勢力的に収集した。第2段階では、一橋大学経済研究所「21世紀COEプログラム」『社会科学の統計分析構築』(2003 - 07年度)「グローバルCOEプログラム」『社会科学の高度統計・実証分析拠点構築』(2008 - 12年度)のなかで、フィリピン統計整理作業班と、作業班が整理・推計した国民経済計算をもとに、フィリピンの歴史経済構造を各産業別に分析する執筆班の二つの班を構成した。

#### 4. 研究成果

本研究では、これまで収集分析されてきたデータをフルに活用して、フィリピン長期経済統計の作成と分析を行った。1995年に開始された本プロジェクト全体のなかでは、第3段階として位置づけられ、引き続き統計整理作業班と執筆班との分業作業を維持しつつ、3年間の研究活動を続けた。2013 - 15年の3年間の研究活動は、以下のとおりである。

2013年度：第二次世界大戦前のアメリカ植民地期及び日本占領期におけるフィリピン経済の時系列統計の収集・整理・加工・分析をまとめた。一橋大学経済研究所でこれまで実施してきた研究プロジェクトにより、この時期のオリジナルな統計の収集はほぼ完成していた。したがって、執筆班は、統計整理作業班との連携のもとに、『アジア長期経済統計』第10巻「フィリピン編」の「第部 記述編」の執筆作業を開始した。とくに留意した点は、本書が、国民経済計算の概念枠組みに則った時系列加工統計集としての正確を維持するよう、人口・労働力や産業構造に関する記述が、「第部 統計編」の国民経済計算(GDP、GDE)と有機的連関をもつことである。

2014年度：第二次世界大戦後の独立から2010年までのフィリピン経済の時系列統計の収集・整理・加工・分析を行う。第二次世界大戦後のデータ入力作業は、『*Philippine Statistical Yearbook: 1998*』と『*Philippine Statistical Yearbook: 2000*』のCD-R版から基本表とデータを抽出して、7 - 8割の作業を終えていた。しかし、フィリピンでこのシリーズの統計集の刊行が始まったのは1970年代半ばであり、とりわけ1940年代後半 - 60年代後半のデータには欠損が多いので、その補充と修正が必要とされた。また、本書の考察時期を当初の2000年までから2010年までとして、10年間延長したことにより、新たにデータ収集を行った。他方、執筆班は、統計整理作業班との連携のもとに、独立後のフィリピン経済を軸として、「第部 記述編」の執筆作業にあたった。とくに第二次世界大戦前の時期の推計との連続性(および断絶にも)考慮しつつ、新たな検討作業を行った。

2015年度：初年度および第2年次年度に実施した作業にもとづき、『アジア長期経済統計』第10巻「フィリピン編」の第一次草稿をまとめた。第一次草稿は、『アジア長期経済統計』(4)「フィリピン編」として、全文334頁の冊子として、一橋大学経済研究所アジア経済統計室に所蔵されている。すでに東洋経済新報社編集部担当者と最終的なまとめの時期を検討し、数年後の刊行をめざしている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

鈴木伸隆「世界遺産観光と地域経済：フィリピン・イロコス・スール州の歴史都市ピガンの事例から」『国際公共政策専攻』(査読有)、第37巻(2016)、pp.1-21.

千葉芳広「フィリピン公衆衛生政策の形成：スペイン・アメリカ両統治下マニラにおけるコレラ流行」『社会経済史学』（査読有）第81巻（2015）pp. 25-47.

鈴木伸隆 “Regional Cash Crop Specialization and Single Migration in the Colonial Philippines,” *The Journal of International Public Policy*（査読有）, vol. 35 (2015), pp. 19-40.

千葉芳広「土地政策と公衆衛生政策：アメリカ統治下フィリピンの開発」『経済学研究』（北海道大学）（査読無）第62巻（2013年）、pp. 11-29.

鈴木伸隆 “Upholding Filipino Nationhood: The Debate over Mindanao in the Philippine Legislature, 1907-1913,” *Journal of Southeast Asian Studies*（査読有）, vol. 44 (2013), pp. 266-291.

鈴木伸隆 “Najeeby Saleeby and America’s Governance of Filipino-Muslims,” *Progressio: Journal of Human Development*（査読有）, vol.5 (2013), pp. 1-21.

〔学会発表〕（計18件）

鈴木伸隆 “Re-Discovering Local History through UNESCO World Heritage: The Case of Vigan, Ilocos Sur, the Philippines,” Invited Seminar at Ljubljana University, March 3, 2016, Ljubljana (Slovenija).

千葉芳広「アメリカ統治下のマニラにおける都市空間と衛生」アジア政経学会全国大会、2015年6月13日、立教大学（東京）

千葉芳広 “Cholera in the Late 19<sup>th</sup> Century’s Manila: Global Contexts and Local Life,” Third Congress of the Asian Association of World Histories,

May 30, 2015, Singapore (Singapore).

永野善子 “Mismanaging an American Colony: State and Finance in the Philippines,” *Philippine and Filipino Studies: 40 Years Hence*, April 9, 2015, Honolulu (USA).

永野善子 “The Philippine National Bank and Lending in Agriculture, 1916-1930,” *Philippine Studies Association*, November 14, 2014, Manila (Philippines).

千葉芳広 “Urban Space and Education in Public Health: Manila, 1905-14,” *Philippine Studies Conference*, September 12, 2014, Canberra (Australia).

鈴木伸隆 “Becoming a Better Muslim: American Education and the Shaping of Muslim Filipino Identity,” Inaugural AAS-in-Asia, July 17, 2014, Singapore (Singapore).

千葉芳広「スペインからアメリカ統治移行期におけるマニラ社会：コレラ流行からみた衛生と生活」社会経済史学会全国大会、2014年5月25日、同志社大学（京都府京都市）

永野善子：“The Philippine National Bank: The American Colonial State and Finance,” *Association of Asian Studies*, March 29, 2014, Philadelphia (USA).

鈴木伸隆 “Making Mindanao as Christian Territory under the American Colonial Governance,” *Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ2014)*, March 1, 2014, Kyoto University (Kyoto).

千葉芳広 “Public Health Policies in the Early American Colonial Philippines,” *Philippine Studies*

Conference in Japan (PSCJ2014), March 1, 2014, Kyoto University, (Kyoto).

千葉芳広 “Public Health Policies in the American Colonial Philippines,” 5th International Conference on the History of Medicine in Southeast Asia, January 10, 2014, Manila (Philippines).

千葉芳広 「近代マニラの衛生と生活」政治経済学・経済史学会北海道部会、2013年11月16日、北海道大学（札幌）

鈴木伸隆：“Population Change and Economic Development in the Philippines, 1899-1946,” The Eighth International Convention of Asian Scholars (ICAS8), June 26, 2013, Macao (China).

〔図書〕(計6件)

永野善子『日本／フィリピン歴史対話の試み：グローバル時代のなかで』御茶の水書房、2016年．203pp.

尾高煌之助The Myanmar Economy: Its Past and Prospects, Tokyo: Springer, 2016, pp. 1-28, 225-233.

永野善子 State and Finance in the Philippines, 1898-1941, *The Mismanagement of an American Colony*, Singapore: NUS Press and Quezon City: Ateneo de Manila University, 2015, 248pp.

鈴木伸隆 Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, Tokyo University of Foreign Studies, 2015, pp.41-71.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

永野 善子 (NAGANO Yoshiko)

神奈川大学・人間科学部・教授

研究者番号：60148252

(2)研究分担者

尾高 煌之助 (ODAKA Konosuke)

一橋大学・名誉教授

研究者番号：90017658

(3)連携研究者

森澤 恵子 (MORISAWA Keiko)

大阪市立大学・文社会科学研究科・教授

研究者番号：60137180

関 良基 (SEKI Yoshiki)

拓殖大学・政経学部・准教授

研究者番号：40459269

千葉 芳広 (CHIBA Yoshihiro)

北海道医療大学・大学教育開発センター・講師

研究者番号：20312340

鈴木 伸隆 (SUZUKI Nobutaka)

筑波大学・人文社会科学研究科・准教授

研究者番号：10323221